

ハルビン出張

先日、1年ほど前に当科に短期留学したMa教授（ハルビン医科大学附属第一病院）の招待でハルビンでの国際学会に出席した。旧満州国の中心都市の一つで、現在は黒竜江省の省都という大都市である。直行便なら3時間弱だが、毎日飛んでいないので、往路は北京経由で8時間かかった。学会前日の深夜に到着し、当日朝一番で講演した後、市内観光に連れていってもらった。ロシア国境に近いせいか、街中にはロシア風建築物が残っており、見どころが多かった。中でも聖ソフィア大聖堂はいわゆる玉ねぎ型のドームを備え、大きな広場で異彩を放っており、なぜか内部にレオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晚餐』のレプリカが飾られていた。昼食はロシア風レストランですませたが、ほぼロシア料理で中国風のアレンジは感じられなかった。市内にはロシア料理店が他にもたくさんあり、人気なのだそうだ。店員からウクライナのビールだと言われ飲んでみたが、よく見るとベルギー産だったのはご愛敬であった。

午後は病院に戻り、Ma教授に院内を案内してもらった。病棟は若干古い内装だったが、積極的にロボット支援下手術を行っていて、その数に圧倒された。少し日本と違うのは、肝臓外科と膵臓外科が完全に分かれており、Ma教授の肝臓グループが膵頭十二指腸切除を施行することは決していないという点である。「広範囲胆管癌に対する拡大右肝切除兼膵頭十二指腸切除はどっちがやるのか」と聞いてみたら、明確には決まっていない（ケースバイケース）し、そもそも実施数が少ないとのことであった。

夜は中国式歓迎会で、お決まりのごとく白酒をさんざん飲まれた後、2次会として焼き鳥屋に連れていかれた。「鳥」と書いたが、食材の中身は種々雑多であり、串焼き屋とも言うべきかもしれない。中には昆虫の幼虫のようなもの（繭に包まれていてよくわからなかった）もあり、さすがにこれは遠慮した。とにかくみな明るく、よく飲みよく食べよく笑いよくしゃべる。隣に座った某教授は日本語が堪能なので、よい話し相手になってもらえたのだが、「中国人の80%はロシアが嫌い、ウクライナ侵攻に反対している」など、きわどい発言が多く、話の内容自体はおもしろいのだが、ちょっと冷や冷やした。本人は日本語だから周りにはわからないと思っているようだが、さすがに「ロシア」の単語を連発し、その話し方を見ていれば、なんとなく内容も推しはかれたのではないだろうか。その後のご無事を祈っている。別の中国人外科医は酔いも回って、「辺境から帰ってきました」とか何とか言って、なぜかチベットだかウイグルの歌をアカペラで歌いだし、これにもびっくりした。そのうち「日本人も歌え」という話になって矛先がこちらに向けられたが、さすがにアカペラで歌う自信はなく、お断りした。中国人が誰でも知っている人気の日本の歌と言えば、『北国の春』か『昴』ということなので、訪中の予定がある方は事前に練習しておくことをぜひお勧めする。彼らの心をわしづかみにできること請け合いである。

(長谷川 潔)

顧問 森岡恭彦 武藤徹一郎 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏

名川弘一 亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史 佐野 武

編集 長谷川 潔 船橋公彦 山下裕玄

臨床雑誌 外 科	第86巻 第13号 (12月号)	2024年12月1日発行 (1093号)
編集兼発行者	東京都文京区本郷三丁目42番6号	小 立 健 太
印刷所	東京都千代田区飯田橋二丁目15番5号	日経印刷株式会社

発行所 ☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6 (営業) TEL 03-3811-7239 : 振替口座 00120-1-149 番
株式会社 南江堂 (編集) TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 <https://www.nankodo.co.jp/>

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物の利用に関する原作者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

広告申込所: ☎ 113-0033 東京都文京区本郷5丁目24番6号本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036